

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11176

研究課題名（和文）多職種・多機関連携による地域包括ケアシステムへの「栄養改善」実装化モデルの構築

研究課題名（英文）Development of "Nutritional Improvement" implementation model for community integrated care system by interprofessional collaboration

研究代表者

藤尾 祐子 (Fujio, Yuko)

順天堂大学・保健看護学部・教授

研究者番号：60637106

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：高齢者の要介護化、介護予防のファクターといわれる栄養状態について、「食形態」と「歯の状態」に着目して心身機能の自立性との関係を明らかにすることを目的に、特別養護老人ホーム入所者1,000名を対象に研究した。「食形態」は「常食」であることが、心身機能の自立性が高いことも示された。また、「歯の状態」が義歯適合良好者は、自歯、義歯適合不良者、義歯必要だが使用せずの者と比べて、心身の自立性が高かった。要介護高齢者の栄養改善を実装化するためのファクターとして「常食」を摂取すること、「義歯適合良好」であることが示唆された。栄養改善実装化モデルに必須のファクターとして「常食」と「義歯適合良好」を提言する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、要介護化のリスクファクターである高齢者の栄養状態について、従来、栄養士のみが取り組んでいた「栄養改善」を、「栄養改善」実装化モデルを提言することで、保健医療福祉職の連携による要介護化のスクリーニングから「栄養改善」アプローチへと連動する効果的な介入方法確立することができる。さらに、本研究による「栄養改善」実装化モデルを、デジタルデバイス等を利活用して、高齢者自身で自己管理できるアプリケーション等IoTへと応用することも可能である。

研究成果の概要（英文）：With regard to nutritional status, which is said to be a factor in requiring nursing care and preventing nursing care for the elderly, we focused on "dietary form" and "dental condition" to clarify the relationship between independence in mental and physical functions. A study was conducted on 1,000 nursing home residents. It was also shown that "regular eating" as a "diet type" was associated with high independence in mental and physical functions. In addition, those who had good dentures in their "dental condition" had higher mental and physical independence than those with natural teeth, those with poorly fitting dentures, and those who needed dentures but did not use them. It was suggested that "regular food intake" and "good denture fit" are factors for implementing nutritional improvement for elderly people requiring care. We propose "regular eating" and "good denture fit" as essential factors for a nutritional improvement implementation model.

研究分野：在宅看護学

キーワード：要介護化 栄養改善 実装化 食形態 歯の状態

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界の総人口に占める 65 歳以上の人の割合(高齢化率)は、1950 年 5.1%から 2015 年 8.3%、2060 年には 18.1%へ上昇すると予測され、WHO (世界保健機関)は 2017 年「高齢者のための統合ケアに関する WHO ガイドライン (WHO Guideline on Integrated Care for Older People: ICOPE)」を発信した。わが国では、2005 年介護保険制度初回改正において運動器機能向上、**栄養改善**、口腔機能向上を主軸に予防重視型システムへ転換が図られた。このように、高齢者の要介護化及び介護重度化の要因に「低栄養」があるが、2005 年改正の予防重視型システムを評価した報告等(辻,2008)(国立長寿医療研究センター,2012)では「**栄養改善**」を必要とする高齢者は未だ 3 割を占め、高齢者の低栄養は解決に至っていない。これまでに、栄養介入、栄養教育等を含む MNA-SF (簡易栄養状態評価表)の有効性と信頼性 (Guigoz Y et al, 2002)は確認されているものの、「**栄養改善**」の介入方法は確立されていない(鶴川,2015)。研究代表者は科研費採択課題 (2013 年度~2015 年度)を実施し、介護サービス従事者の「**栄養改善**」に対する意識の低さ (FUJIO,2014)、要介護高齢者の栄養状態低下と心身機能低下との関連 (FUJIO,2016)を明らかにした。さらに、科研費採択課題 (2016 年度~2018 年度)ではケアマネジャーへの調査により、現任研修において栄養教育が不在であること、任意の栄養教育を受講した者のみが**栄養改善**プランを作成していることを明らかにした (FUJIO,2018)。

その後の継続研究として、高齢者の要介護化及び介護重度化予防のため、多職種・多機関連携による「**栄養改善**」プログラムを導入し自立性回復の有効性を検証することで、地域包括ケアシステムへの実装化モデルを構築することを目的とした。将来は、スマートフォンアプリ等、IOT 利活用により多職種・多機関と高齢者本人とが情報共有し、「**栄養状態**を自己管理・改善」できるシステム開発に発展させる。

2. 研究の目的

高齢者の要介護化及び介護重度化予防のため、多職種・多機関連携による「**栄養改善**」プログラムを導入し自立性回復の有効性を検証することで、地域包括ケアシステムへの実装化モデルを構築する。地域包括ケアに従事する医療職および福祉職の要介護高齢者の「**栄養改善**」における実態と課題を明らかにし、「**栄養改善**」のファクターである「**食形態**」および「**歯の状態**」と、要介護高齢者の心身機能との関係から示唆を得ることで、「**栄養改善**」実装化モデルを開発する。

3. 研究の方法

(1) 地域包括ケアにおける要介護高齢者の「**栄養改善**」の実態と課題に関する調査 (インタビュー調査)

2019 年度に、医療機関、介護保険施設、在宅サービスといった地域横断的な連携を必要とする地域包括ケアに従事する医療職および福祉職を対象に、要介護高齢者の「**栄養改善**」の実態と課題の構造を、職員の語りを通して明らかにすることを目的にインタビュー調査を実施した。2019 年 7 月 1 日から 9 月 30 日までに 12 名の対象者に、高齢者の**栄養状態**と心身の自立性との関連、**栄養状態**の評価と使用アセスメントの有用性、具体的な**栄養改善**の方法と連携職種、他施設や事業所との情報共有、**栄養教育**等について半構造化面接法によるインタビュー調査を実施した。要介護高齢者の**栄養改善**の実態と課題に焦点をあてコード化し、コードの共通性を見出しカテゴリー化した。その後、研究代表者および分担者間でディスカッションを重ねて妥当性を高めた。また、Text Mining Studio Ver.6.1 を用いて単語頻度解析、対応パブル分析を行い、属性、カテゴリー、単語との関係性を確認した。さらに、カテゴリーの類似性、相違性を比較しながらカテゴリー間の関係性を模索しつつ、要介護高齢者の「**栄養改善**」の実態と課題の構造化を行った。

(2) 要介護高齢者の「**食形態**」および「**歯の状態**」と心身機能との関係に関する調査 (横断的観察研究)

2021 年度から 2022 年度には、自立支援介護を実践する特別養護老人ホーム 14 施設 1,000 名の入所者の「**食形態**」および「**歯の状態**」と心身機能の自立性との関係を明らかにするため、横断的観察研究を実施した。要介護状態にある入所者 1,000 名の「**食形態**」および「**歯の状態**」と高齢者の自立性として要介護度、障害高齢者日常生活自立度、認知症高齢者日常生活自立度、移動能力として屋内外移動、認知機能として意思伝達、日課理解、年齢や名前を言う、直前記憶、季節の理解、場所の理解について調査した。分析には統計解析ソフト IBM SPSS Statistics26.0 を使用し、2 検定または一元配置分散分析を行った。自立支援介護とは、高齢者の自立性維持・向上を目的とした「**水分**」「**食事**」「**排便ケア**」「**運動**」をいい、これら 4 つのケアを日々の介護に取り入れている特別養護老人ホームを対象に研究を行った。

4. 研究成果

(1) 地域包括ケアにおける要介護高齢者の「**栄養改善**」の実態と課題に関する調査

インタビュー調査は、急性期病院、回復期リハビリ病院、特別養護老人ホーム、通所介護事業所、訪問看護ステーションに従事する医療職および福祉職で、看護師 7 名(58.3%)、理学療法士 2 名(16.7%)、介護福祉士 2 名(16.7%)、ソーシャルワーカー 1 名(8.3%)の合計 12 名から

回答を得た。インタビュー調査結果は、426 コードから 21 サブカテゴリー、7 カテゴリーが生成された。地域包括ケアにおける要介護高齢者の「栄養改善」の実態として、【**栄養改善および連携の工夫**】と【**栄養改善の組織化**】が図られていた。この背景には、地域包括ケアに従事する対象者いずれもが要介護高齢者の【**栄養状態と環境因子との関連**】や【**栄養状態と心身機能との関連**】を実感していることが要因としてある。その反面で、【**他職種・他機関との栄養連携における困難**】【**栄養教育の不在と必要性**】【**栄養評価の未実施と必要性**】の課題も存在した。特に、【**栄養改善および連携の工夫**】と【**栄養改善の組織化**】を推進するうえでの最も大きな課題は、【**他職種・他機関との栄養連携における困難**】であるという構造が明らかとなった。地域包括ケアにおける要介護高齢者の「栄養改善」には、職種や機関を超えた、専門職連

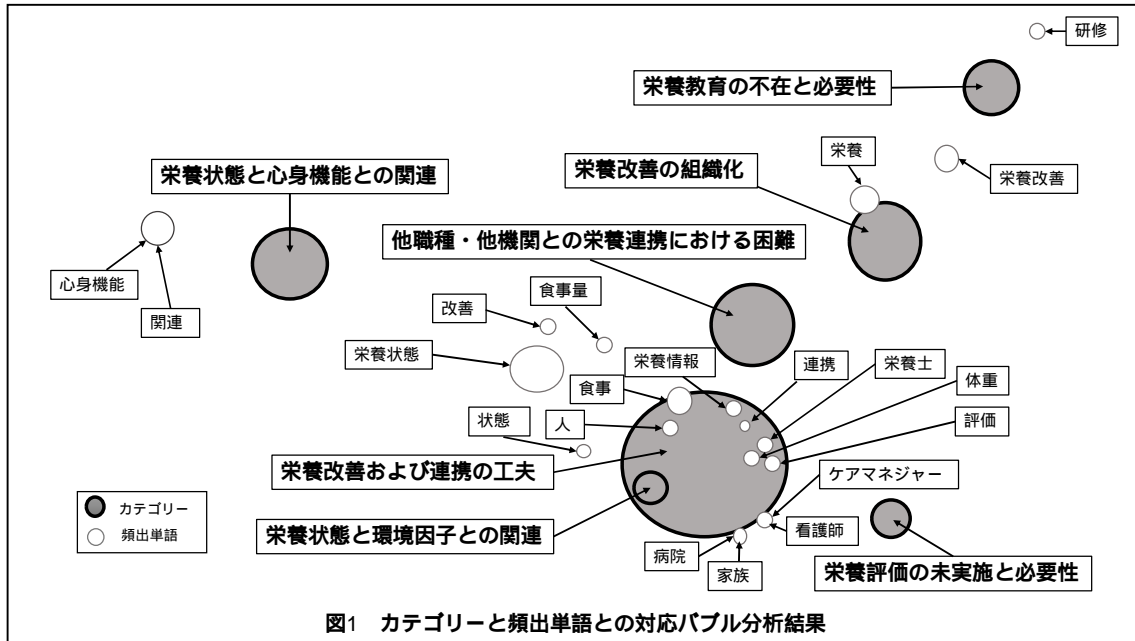


図1 カテゴリーと頻出単語との対応パブル分析結果

携教育(Interprofessional Education: IPE)の機会と専門職連携実践(Interprofessional Work : IPW) の必要性が示唆された。また、Text Mining Studio Ver.6.1 の分析結果からカテゴリーと多く語られた単語との関係性を分析した(図1)

さらに、要介護高齢者の「栄養改善」の実態と課題について、地域包括ケアにおける要介護高齢者の「栄養改善」の実態として、【**栄養改善および連携の工夫**】と【**栄養改善の組織化**】が図られていた。この実態は、地域包括ケアに従事する対象者いずれもが要介護高齢者の【**栄養状態と環境因子との関連**】や【**栄養状態と心身機能との関連**】を実感していることが背景としてある。その反面で、【**他機関との栄養連携における困難**】【**栄養教育の不在と必要性**】【**栄養評価の未実施と必要性**】の課題も存在した。特に、【**栄養改善および連携の工夫**】と【**栄養改善の組織化**】を推進するうえでの最も大きな課題は、【**他機関との栄養連携における困難**】であるという構造が明らかとなった(図2)

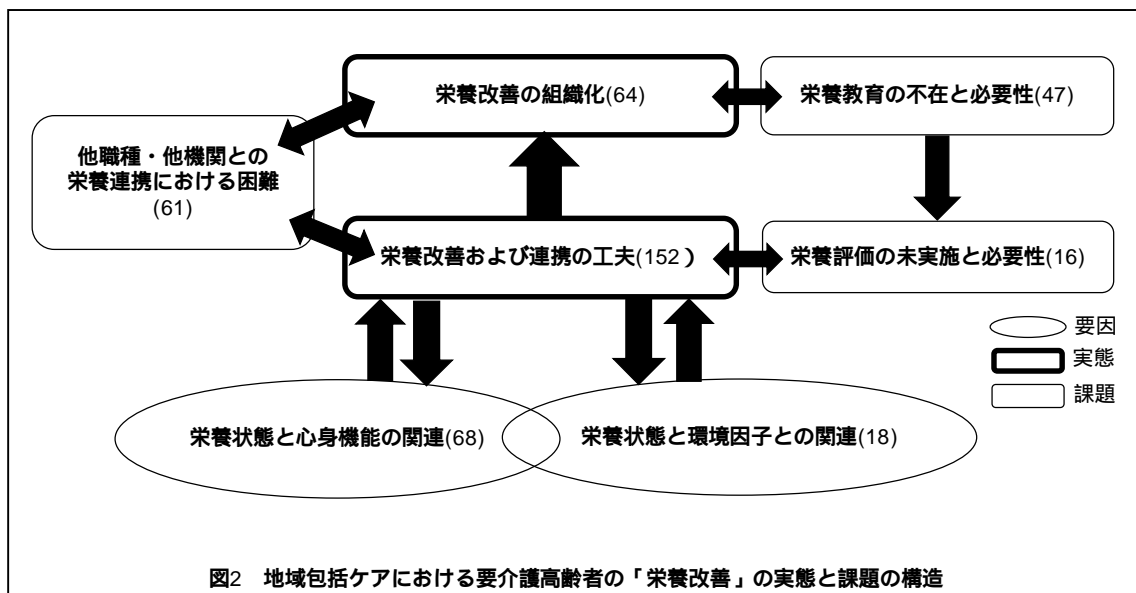


図2 地域包括ケアにおける要介護高齢者の「栄養改善」の実態と課題の構造

(2) 要介護高齢者の「食形態」および「歯の状態」と心身機能との関係に関する調査

自立支援介護を実践する特別養護老人ホーム入所者の「食形態」と心身機能の自立性との関係について、常食は、常食外および胃瘻と比べて、要介護度、障害高齢者日常生活自立度、認知症高齢者日常生活自立度いずれも軽度の割合が高い結果であった。また、1日の水分摂取量や食事摂取量が多く、離床時間が長い結果であった。さらに、屋内外移動の自立性と屋内外移動補助具使用の割合が高く、意思伝達や状況認知が「できる」割合が高い結果であった。本研究により、要介護高齢者の「食形態」と「移動能力」および「認知機能」との関係が明らかとなった。そして、「食形態」は「常食」であることが、心身機能の自立性が高いことも示された。高齢者の食事ケアにおいて、「常食」を摂取することの重要性が示唆された。

また、同様の対象者に対して、「歯の状態」と心身機能の自立性との関係について、「歯の状態」が義歯適合良好者は、自歯、義歯適合不良者、義歯必要だが使用せずの者と比べて、要介護度、障害高齢者日常生活自立度、認知症高齢者日常生活自立度が軽度の割合が有意に高かった。また、1日の食事摂取量が有意に多く、離床時間および歩行距離が有意に長い結果であった。認知機能では、意思伝達「できる」、状況認知「できる」の割合が有意に高かった。要介護高齢者の「歯の状態」として、義歯適合良好であることが心身機能の自立性が高いことが示された。

(3) 本研究のまとめ

(1)および(2)の研究結果をふまえて、高齢者の要介護化、介護予防のファクターといわれる栄養状態について、要介護高齢者の栄養改善を実装化するための「常食」を摂取すること、「義歯適合良好」であることが示唆された。栄養改善実装化モデルに必須のファクターとして「常食」と「義歯適合良好」を提言する。

また、従来、栄養士のみが取り組んでいた「栄養改善」を、「栄養改善」実装化モデルを提言することで、保健医療福祉職の連携による要介護化のスクリーニングから「栄養改善」アプローチへと連動する効果的な介入方法を確立することができる。さらに、本研究による「栄養改善」実装化モデルを、デジタルデバイス等を活用して、高齢者自身で自己管理できるアプリケーション等 IOT へと応用することも可能である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 FUJIO Yuko、ENOMOTO Yoshiko、KODAIRA Megumi、ENOMOTO Yukie、FURUKAWA Kazutoshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Mental and Physical Functions of Residents of Special Elderly Nursing Homes Providing Functional Recovery Care	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 18～32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.22.18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤尾祐子、斎藤都子、榎本佳子	4. 巻 10
2. 論文標題 三島北地区地域包括支援センター強化事業においてケアマネジャーが感じる「家族介護者支援」の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健看護研究	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 FUJIO Yuko、ENOMOTO Yoshiko、OGAWA Noriko、FURUKAWA Kazutoshi、KODAIRA Megumi、ENOMOTO Yukie	4. 巻 20
2. 論文標題 Structure of Nutrition Improvement Approaches for Care-dependent Older People and Related Challenges in Community-based Integrated Care	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 1～18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.20.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 ENOMOTO Yoshiko、FUJIO Yuko、KODAIRA Megumi	4. 巻 21
2. 論文標題 Factors Promoting Independent Excretion in Residents of Special Nursing Homes for the Elderly	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 1～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.21.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 FUJIO Yuko、ENOMOTO Yoshiko、OGAWA Noriko、FURUKAWA Kazutoshi、KODAIRA Megumi	4. 巻 18
2. 論文標題 Structure of Care Managers' Approaches to and Awareness of "Nutritional Improvement" for Care-dependent Older People	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.18.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 FUJIO Yuko、NISHIBE Makoto、ARAKI Erika、SHIMADA Hiromi、SUGIYAMA Tomoko、SATO Nobuhiro	4. 巻 19
2. 論文標題 Structuring the Effects of Functional Recovery Care in a Private Home with Care Services for Older People	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.19.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎本佳子、藤尾祐子、小平めぐみ	4. 巻 14
2. 論文標題 強化型老健で実施されている要介護高齢者の排泄自立支援の実態 - 具体的な支援方法と医療施設との連携について -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本自立支援介護・パワーリハ学	6. 最初と最後の頁 38-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川典子、藤尾祐子、鈴木江利子、榎本佳子、酒井太一	4. 巻 8
2. 論文標題 静岡県東部地域における医療介護福祉専門職間の地域連携・協働実践 (IPE) の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 順天堂保健看護紀要	6. 最初と最後の頁 36-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuko FUJIO, Yoshiko ENOMOTO, Kazutoshi FURUKAWA, Megumi KODAIRA, Noriko OGAWA	4. 巻 16
2. 論文標題 Interprofessional Cooperation ICT Program Development aimed at "Nutrition Improvement"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of HUMAN SERVICES	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.16.45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazutoshi FURUKAEA, Joung Uk BACK, Do Hwa BYEON, Hwa Yeong CHOI, Yuko FUJIO	4. 巻 16
2. 論文標題 An Awareness Survey Involving Employee of Welfare Facilities for Older Persons to Develop an Education Program for Functional Recovery Care: Comparing Japan and South Korea	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of HUMAN SERVICES	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.16.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshiko ENOMOTO, Yuko FUJIO, Megumi KODAIRA	4. 巻 17
2. 論文標題 A Current Status of Care Plans for Independent Excretion in Japan's Long-term Care Insurance Services	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of HUMAN SERVICES	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.17.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Megumi KODAIRA, Yuko Fujio, Yoshiko ENOMOTO
2. 発表標題 Mental and physical functions of residents of special elderly nursing homes providing nursing care to support independence (4st report): Comparison of Care in Facilities Certified and Not Certified as "Diaper-free during the Daytime"
3. 学会等名 Hanoi International Seminar 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko FUJIO, Yoshiko ENOMOTO, Megumi KODAIRA, Yukio ENOMOTO, Kazutoshi FURUKAW
2. 発表標題 Mental and physical functions of residents of special elderly nursing homes providing nursing care to support independence (1st report): Jaw bite and movement ability/cognitive function
3. 学会等名 2021 ASHS CONGRESS in SHIMONOSEKI (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshiko ENOMOTO, Yuko FUJIO, Megumi KODAIRA, Yukio ENOMOTO, Kazutoshi FURUKAW
2. 発表標題 Mental and physical functions of residents of special elderly nursing homes providing nursing care to support independence (2st report); cognitive dysfunction and excretory behavior
3. 学会等名 2021 ASHS CONGRESS in SHIMONOSEKI (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Megumi KODAIRA, Yuko FUJIO, Yoshiko ENOMOTO, Yukio ENOMOTO, Kazutoshi FURUKAW
2. 発表標題 Mental and physical functions of residents of special elderly nursing homes providing nursing care to support independence (3rd report): Cognitive function (ability) and care status
3. 学会等名 2021 ASHS CONGRESS in SHIMONOSEKI (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤尾祐子, 榎本佳子, 小川典子, 古川和稔, 小平めぐみ, 榎本雪絵
2. 発表標題 自立支援介護を实践する特別養護老人ホーム入所者の「食形態」と「認知機能」との関係
3. 学会等名 日本老年看護学会第26回学術集会 in 名古屋
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤尾祐子, 榎本佳子
2. 発表標題 自立支援介護を実践する特別養護老人ホーム入所者の心身機能の自立性 (第一報) - 食形態と移動能力 -
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会 in 名古屋
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 榎本佳子, 藤尾祐子
2. 発表標題 自立支援介護を実践する特別養護老人ホーム入所者の心身機能の自立性 (第二報) - 排泄自立と認知能力 -
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会 in 名古屋
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤尾祐子, 榎本佳子, 小川典子
2. 発表標題 地域包括ケアにおける要介護高齢者の「栄養改善」の実態
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 榎本佳子, 藤尾祐子, 小平めぐみ
2. 発表標題 医療施設から入所する要介護高齢者の排泄自立を支援する際の課題 - 在宅強化型老健におけるグループインタビューから -
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuko FUJIO, Yoshiko ENOMOTO, Noriko OGAWA
2. 発表標題 Care Managers' Approaches to and Awareness of Nutritional Improvement for the Care-dependent Older People
3. 学会等名 Internatinonal Council of Nurse Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko FUJIO, Makoto NIDHIBE, Erika ARAKI, Hiromi SHIMADA, Tomoko SUGIYAMA, Nobuhiro SATO
2. 発表標題 Effects and Challenges of Functional Recovery Care in Private Homes with Care Services for Older Peoples
3. 学会等名 ASHS CONGRESS INVITATION 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noriko OGAWA, Yuko FUJIO, Eriko SUZUKI
2. 発表標題 Current Status and Challenges of Community Medical Liaison through Inter-professional Work (IPW)
3. 学会等名 Internatinonal Council of Nurse Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko ENOMOTO, Yuko FUJIO, Magumi KODAIRA
2. 発表標題 Contents of Excretion Care Plan Formulated by Long-term Care Insurance Service
3. 学会等名 ASHS CONGRESS INVITATION 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤尾祐子, 榎本佳子, 小川典子, 古川和稔, 小平めぐみ
2. 発表標題 要介護高齢者の「栄養改善」に対するケアマネジャーの意識と実態の構造
3. 学会等名 日本老年看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 竹内孝仁, 小平めぐみ, 古川和稔, 榎本雪絵, 藤尾祐子, 榎本佳子, 坂田佳美, 植田裕太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本自立支援介護・パワーリハ学会	5. 総ページ数 129
3. 書名 特別養護老人ホームにおける入居者のケアと口腔状態の実態 - 高齢者施設入所者の口腔機能調査プロジェクト調査報告書 -	

1. 著者名 佐藤信紘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 毎日新聞出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 ハッピーエイジング	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小平 めぐみ (Kodaira Megumi) (00611691)	国際医療福祉大学・医療福祉学研究科・准教授 (32206)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榎本 雪絵 (Enomoto Yukie) (10549091)	杏林大学・保健学部・准教授 (32610)	
研究分担者	榎本 佳子 (Enomoto Yoshiko) (20637102)	順天堂大学・保健看護学部・准教授 (32620)	
研究分担者	小川 典子 (Ogawa Noriko) (30621726)	順天堂大学・保健看護学部・教授 (32620)	
研究分担者	古川 和稔 (Furukawa Kazutoshi) (90461730)	東洋大学・ライフデザイン学部・教授 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関